令和４年度　特別養護老人ホーム 一味園事業実績報告書

第１　総括

法人の基本理念を念頭におき、コロナ禍にあっても可能な範囲で施設内行事を実施し、その中で人と人との関わりを持つことで、喜びや楽しみ、生活に変化を持てるように取り組みました。また、ご利用者一人ひとりの希望や意思の実現に向けて、個別性に配慮したサービスの提供に努めました。

職員の介護技術の研鑽や、ご利用者の生活リハビリを行うことで可能な限り残存能力を生かしながらADLを維持し、その人の心身の状況に応じて施設での生活がごく普通の暮らしとして継続できる様に自立支援を行いました。

なお、年末から新型コロナのクラスター発生と、年度末にはインフルエンザが施設内で感染拡大しましたが、幸い死亡者は出なかったものの、隔離や行動制限により廃用症候群ともいえる体力、筋力、気力の低下や病気治癒後も体調がすぐれない状況がありました。感染予防対策の重要性とADLや認知機能を維持することの難しさを再認識しました。

運営体制につきましては、令和４年度のご利用者定数平均が４１名であり、例年、職員の補充・確保が充分ではなく、満床での稼働とならない状況でした。短期入所については、施設内の新型コロナウイルス感染防止の観点から受け入れを制限した中での運営となりました。

令和４年度主要重点項目

１．サービスの質の向上について

ご利用者の介護支援では、生活リハビリを主体とし、寝たままの食事・排泄・入浴はしない、させない様に残存能力の維持・向上に努めました。また、一人ひとりの思いやニーズに沿った生活が出来る様に、担当介護員を中心に多職種協働での支援に努めました。

生活環境整備として、ヒヤリハットや事故報告を検証並びに、カンファレンスを活用し、各ご利用者にとってより安全で安心できる生活の提供に努めました。

今年度からほぼ毎日体操やレクリエーションに取り組み、コロナクラスターやインフルエンザで一時中断したものの、ご利用者の身体機能の維持、楽しみかつ単調な生活に変化をもたらしました。

２．人材育成について

専門知識や技術習得のために定期的に施設内研修を行い、更なる資質の向上に努めました。今年度は、外国人福祉人材や中途採用者が入職し、言葉や経験年数、介護技術の力量にばらつきがみられる様々な職員に対して、介護記録の記入方法から食事介助、痙攣時の対応など、例年以上に幅広い内容の研修を行いました。また、指導や教育にも時間をかけ、職員が提供するケアの標準化が図れるよう取り組みましたが、十分とはいえない状況であり、課題となりました。

また、新任職員への指導については、担当制により、一貫した指導につながりました。

一方で、人員不足のため、移乗動作等の介護技術研修が充分とはいえない状況となりました。外部研修に参加出来ない状況もあり、次年度については、開催回数の検討や、経験年数や能力に応じた研修等、内容も含めた検討をおこない人材育成に努めます。今後も外国人福祉人材が入職することが予想されることから、効率よく一貫した指導が出来るように基礎となる指導要領の検討・整備を進めます。

３．健康管理の充実について

毎日のバイタルチェックをはじめとし、看護職員と介護員の連携を密にして、ご利用者一人ひとりの健康状態の把握を行い、日常の細かい観察から異常の早期発見と対応、健康管理に努めました。

職員は毎日の出勤前検温や定期的な抗原検査を実施していましたが、令和４年１２月に新型コロナウイルス集団感染（クラスター）となり、ご利用者２７名、職員１６名、計４３名が感染しました。年度末にはインフルエンザでご利用者１０名、職員１０名、計２０名が感染しました。インフルエンザ発症では、クラスターでの経験を生かし、隔離対応など速やかな初動と対応ができましたが、感染拡大を止めることが出来ませんでした。感染後は体調の

変化が表れ、持病の悪化と隔離期間の行動制限で心身機能が低下した状況が見られました。２つの感染流行を受け、今後は、感染後の利用者の健康観察に留意し、職員一人一人の健康管理意識と感染予防に対するより一層の意識向上と実践力の向上を図ることと、感染を拡大させない施設の構造上の問題が課題となりました。

４．職員のチームワーク強化と離職防止・定着化を図ることについて

毎日のケースカンファレンスや、毎月の職員会議後の研修等の定着し、互いの意見交換の場があることで、職員間の互いへの理解を深め、チームワーク強化の一助としました。

経験年数に応じた業務推進は体制整備が出来なかったため、来年度の課題となります。ICT 化を推進し、介護負担の軽減や働きやすい環境整備を進めることについては、今年度は取り組みできませんでした。来年度、委員会を中心に現状の問題抽出や職員の意見を聞きながらICT 化について検討をします。

５．施設経営について

コロナ禍でショートの受け入れを制限し、かつ待機者も少ない状況で、職員確保も難しい中、稼働率向上は難しい課題です。今年度の平均稼働率は７７．８％でした。次年度も新規入所者受け入れについての情報収集・検討等を継続します。

施設内消耗品等の節約節減と、ご利用者の快適な生活空間の確保のためには老朽化が著しい建物に関する修繕は必須であり、限られた予算の中で、優先度を考えながら、ご利用者が安心して生活できる様に修繕を随時行いました。

６．外国人福祉人材受け入れ準備について

受け入れにあたって、指導担当職員を配置するだけでなく、教育・指導内容を精査し、様々な職員に役割を分担しました。生活面や健康面でのサポートを含めた業務以外の対応においては、一定の職員が役割を担う状況でした。次年度以降、外国人福祉人材が増えていくことが予測され、今後は全職員での取り組みを課題としています。

第２　ご利用者の状況（令和５年３月３１日現在）

１．要介護度別状況と費用負担分類

介護度	男性	女性	計	構成比	第１段階	第２段階	第３段階1	第３段階2	第４段階	計
要介護１	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護２	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護３	1	9	１０	24%	0	1	7	0	2	１０
要介護４	１１	6	１７	40.4%	1	4	4	5	4	１８
要介護５	4	１１	１５	36%	1	4	6	1	2	１４
合　計	１６	２６	４２	100%	2	9	１７	6	8	４２

２．保険者（出身地）の状況

市　町　村	男性	女性	計
南富良野町	１０名	１８名	２８名
富良野市	４名	５名	９名
上富良野町	０名	１名	１名
圏域外	２名	２名	４名
合　　計	１６名	２６名	４２名

３．在所期間の状況

期　　間	計
１年未満	7
１年以上２年未満	4
２年以上４年未満	１２
４年以上６年未満	8
６年以上１０年未満	8
１０年以上	3
合　　計	４２
平均在所期間・・・　４年６ヶ月	

４．年齢別構成

年　齢　階　層	男性	女性	計	構成比	備　　考
６０～６４歳	０名	０名	０名	0%	平均年齢　８８．１歳
６５～６９歳	０名	０名	０名	0%	
７０～７４歳	０名	０名	０名	0%	最高年齢　男性９８歳
７５～７９歳	１名	３名	４名	9.5%	女性９８歳
８０～８４歳	６名	２名	８名	19.0%	
８５～８９歳	５名	７名	１２名	28.6%	最若年齢　男性７６歳
９０～９４歳	２名	１０名	１２名	28.6%	女性７６歳
９５～９９歳	２名	４名	６名	14.3%	
１００歳以上	０名	０名	０名	0%	
合　　計	１６名	２６名	４２名	100%	

５．身体状況

区　　分	男性	女性	計	構成比
独歩（付き添い含）	１名	２名	３名	7.1%
歩行器（付き添い含）	１名	５名	６名	14.3%
車椅子自走	３名	３名	６名	14.3%
車椅子他動	１１名	１６名	２７名	64.3%
合　　計	１６名	２６名	４２名	100%

６．月別入所・退所者の状況

区　分	入　所　者		退　所　者	
	男性	女性	男性	女性
４月	１名	０名	０名	０名
５月	０名	０名	０名	０名
６月	０名	０名	１名	０名
７月	０名	０名	０名	０名
８月	０名	０名	０名	０名
９月	０名	０名	１名	２名
10月	１名	０名	０名	１名
11月	１名	０名	０名	０名
12月	０名	０名	０名	０名
１月	０名	０名	０名	０名
２月	１名	１名	０名	２名
３月	１名	１名	０名	０名
合　計	５名	２名	２名	５名

７．短期入所利用者の状況

短 期 入 所 利 用			
区分	男性	女性	利用日数
４月	０名	０名	０日
５月	０名	０名	０日
６月	０名	０名	０日
７月	０名	０名	０日
８月	０名	０名	０日
９月	０名	０名	０日
10月	０名	１名	６日
11月	０名	０名	０日
12月	０名	０名	０日
１月	０名	０名	０日
２月	０名	０名	０日
３月	０名	０名	０日
合計	延０名	延１名	延６日

８．入所前の状況

区　　分	人　員
家庭	１名
養護老人ホーム	０名
有料老人ホーム	１名
生活支援施設（くるみ園等）	２名
病院	０名
介護老人保健施設	３名
障害者支援施設	０名
合　　計	７名

９．退所後の状況

区　　分	人　員
家庭	０名
養護老人ホーム	０名
介護老人保健施設	０名
その他の社会福祉施設	０名
病院	０名
死亡	７名
合　　計	７名

第３　運営組織と職員研修

１．組織体制（Ｒ５．３．３１）

区　分	園　長	総務係	介護係	医務係	嘱託医	短時間	宿直管理	合計
男　性	１	３	９	０	１	０	２	１６
女　性	０	２	１２	３	０	６	０	２３
合　計	１	５	２１	３	１	６	２	３９

２．職員研修

（１）関係機関の開催する各種研修会の参加は次のとおりです。

研 修 実 施 機 関	参　加　職　員	延人員
道北老施協（ZOOM・ｵﾝﾗｲﾝ含）	施設長・相談員・事務員	４名
全国老施協（ZOOM・ｵﾝﾗｲﾝ含）	施設長・介護課長	２名
道社協(ｵﾝﾗｲﾝ)	介護員	７名
広域消防	多職種	１５名
その他（ｵﾝﾗｲﾝ）道・白十字等	相談員・介護員・栄養士・事務員・看護師	１５名

（２）施設主催による各種研修会は次のとおり実施しました。

研　修　名	開　催　回　数	参　加　延　人　員
法人階層別研修（ZOOM 含）	５回	２７名
法人研修（ZOOM 含）	３回	４４名
一味園内部研修	３８回	２３１名

第４．事業概要及び実績

事　業　提　供		事　業　の　内　容
総務	施設管理と器具・備品整備	庁舎の老朽化が進んでおり突発的な修理・修繕については、随時行いました。
	利用契約	入所に際しては、ご家族などの契約者に対し施設サービスの提供内容や利用料などについて説明の上、契約締結を行いました。 苦情受付担当者等を定め、サービス内容への苦情等に対する体制を整備し、改善に向けて真摯に対応しました。
	短期入所生活介護事業	新型コロナウイルス感染症の流行により、施設内への感染防止の観点から受け入れを制限することとなりました。
	研修・会議 委員会の開催	新型コロナウイルス感染症の流行により、外部研修に参加出来ない状況の中、ＷＥＢ研修をとおして、経験年数に応じた研修に参加し、さらなる資質向上に努めました。 施設内研修では、定期的に各種研修を実施し、専門知識や技術の向上・研鑽に努めました。また、虐待防止や事故防止に関する研修を重ね、事故や不適切なケアとならない様に意識付けを行いました。 外国人福祉人材や中途採用者等、言葉や経験年数、介護技術の力量が様々な職員に対して、介護記録の書き方や食事介助はもとより、痙攣時の対応、酸素療法、カテーテルについてなど、医療的処置を抱えながら生活するご利用者への理解や対応についてなど、例年以上に幅広い内容の研修を行いました。かつ、指導や教育にも時間をかけ、職員が提供するケアの標準化が図れるよう取り組みました。 定例の職員会議をはじめ各委員会を適時開催し、ご利用者の効果的な支援や職員間の連携に努めました。
	防災対策	避難訓練や通報訓練を消防署立会いのもと実施しました。 緊急時に速やかに連絡が行える様に緊急連絡網を活用した通報訓練及び招集訓練を行いました。 備蓄食材については定期的に在庫や期限の確認を行いました。
	交通安全の推進	職員会議等での安全運転への喚起を促し、また、セーフティーラリーに参加する事で、交通安全に対する意識の向上を図りました。
	広報関係	日々のご利用者の生活状況を、法人フェイスブックを活用しました。また、毎月、行事の様子等を、インフォメーションとしてご家族に送付しました。
介護・給食業務・医務	ご利用者の健康管理等	嘱託医の定期回診や毎日のバイタルチェックを行い、嘱託医と適宜連絡を取り、必要時は専門機関への受診や治療につなげました 今年度の救急搬送は、延１９件でした。入院については２６件と昨年度と比較し倍増しており、コロナやインフルエンザ感染後に体調が戻らず、持病が悪化したケースが増えたのが原因の一つとなっています。 今年度は新型コロナワクチン予防接種の５回目まで実施しました。また、例年実施のインフルエンザ予防接種や健康診断を行い、感染予防対策と疾病の早期発見治療に努めました。 感染対策として、ご家族等の直接面会禁止を継続し、毎日、職員の出勤前検温や定期的抗原検査の実施等でウィルスを持ち込まない対策を講じました。しかし 12 月に新型コロナウイルスクラスターにてご利用者２７名、職員１６名、計４３名が感染、年度末にはインフルエンザでご利用者１０名、職員１０名、計２０名が感染しました。感染後の体調回復が思わしくないご利用者や隔離期間が長引いたことなどからの心身機能低下が目立つご利用者、感染後に持病が悪化したご利用者もいたため、看護職員による毎日のバ

介護・給食業務・医務		イタルチェック、看護職員と介護職員の連携により、ご利用者一人ひとりの健康状態の把握を行い、ご利用者の小さな変化も見逃すことのない様に努めました。
	ご家族への対応について	面会禁止の中で、担当介護員や医務から定期的に手紙を送付し、ご利用者の身体状況や日常の生活の状況を報告する事で、日々の様子や支援内容の情報提供を行いました。 介護部門では、今年度から手紙だけでなく、定期的に家族に連絡を行う事で、信頼関係構築に努めました。 また、ご家族と電話で話す機会を設けたりオンライン面会をとおして、ご家族にご利用者の様子を実感していただきました。
	看取りケアについて	終末期にあるご利用者のご家族に対し、嘱託医を交えた面談の上、ご利用者やご家族に配慮した終末期支援に取り組みました。 新型コロナウィルス感染症流行の中、面会時におけるご家族の人数や時間制限、並びに個室対応などの感染予防を講じた上で、直接面会を行い、ご利用者とご家族が最期の時間を共に過ごせる様に配慮しました。看取り期支援について共通認識でケアを行えるようカンファレンスを実施し、最期まで苦痛のない穏やかで尊厳ある生活を送れる様に多職種協働で支援しました。 今年度の死亡退所は７件で、内６件が一味園での看取りとなりました。
	介護支援計画による支援	ご利用者に適した実行性ある支援ができる様に、随時ケースカンファレンスを実施しました。ケアプランの策定、見直しについても随時行い、ご利用者の生活の質の向上に努めました。
	日常生活支援	生活リハビリを主軸とし、ご利用者一人ひとりの心身の機能に応じた支援が出来る様に適宜ケースカンファレンスで検討し、残存能力の維持・向上を目指す支援に努めました。
	食事支援	栄養士を中心として、ご利用者の咀嚼・嚥下機能等の身体状況や嗜好に考慮し提供しました。食事量減少や低栄養が見られるご利用者には、補助食品等で補い、食事量や栄養状態の改善に努めました。誤嚥予防にも配慮し、食事時の適切な座位がとれるようにし、安全に食事が出来る様に配慮しました。 出前をとることで外食気分を味わっていただき、焼肉、屋台村、しゃぶしゃぶ、おはぎ作り等の行事食を実施し、季節感とともに食事の楽しみを感じていただきました。 給食業務委託初年度であり、栄養士に窓口を１本化し、食事サービスの向上を図りました。
	入浴支援	ヒバ浴槽での個浴（家庭浴）介助の技術向上を図り、安心・安全な入浴支援に努めました。また、湯上りカフェを行い、職員手作りの菓子と共にジュース等の水分を提供し、脱水予防に努めながら、入浴後のひと時を楽しんでいただきました。 コロナやインフルエンザが施設内に流行中は、入浴中止であったため、清拭や足浴、洗髪等で保清を図りました。
	排泄支援	個々のご利用者にあわせた排尿間隔でのトイレ排泄やパッドの検証を行い、出来る限りトイレでの排泄が出来る様に支援をしました。 プライバシーを尊重しながら陰部の清潔保持として、各ご利用者への陰部洗浄を継続・実施しました。 コロナやインフルエンザ流行の入浴中止期間中は、陰部のただれが起きやすい為、注意して陰部洗浄に取り組みました。
	行事・レクリエーション等について	四季を感じていただけるよう、春はお花見ドライブ、夏は園庭で焼肉、盆踊り、冬には開園記念祝典など行事を通じ、ご利用者に季節感を楽しんでいただきました。

		東西各棟で趣向を凝らしたお楽しみ会を企画し、外出が出来ない中でも楽しんでいただける様に努めました。 今年度も、新型コロナウイルス感染症関連での外出自粛で、外食や遠出しての買い物、お祭り見学などの地域との交流が出来ず、ご利用者の楽しむ機会が少ない中でしたが、レクリエーションや体操をほぼ毎日実施し、日常の中での楽しみと生活の変化、心身の機能維持を図りました。
	職員の健康管理	職員の定期健康診断及び腰痛検査を実施し、適宜相談・受診勧奨を行いました。 新型コロナワクチン予防接種の５回目接種を実施し、定期的な抗原検査も実施しました。また例年のインフルエンザ予防接種も実施しました。 今年度は２回の感染症の感染拡大があったことから、来年度は、職員自身の健康管理がご利用者に影響する事の認識を高めることに努めます。